Design Science
立命館大学 デザイン科学研究所

2024 年 10 月 16 日

報道関係各位

＊本資料の配布先：京都大学記者クラブ、草津市政記者クラブ、
大阪科学・大学記者クラブ、文部科学記者会

立命館大学
株式会社アイシン

立命館大学デザイン科学研究所と株式会社アイシン　産学連携共同研究
「性被害やっつけたるわファミかるた SNS 編」
2024 年度グッドデザイン賞を受賞
～子どもの性被害というセンシティブで複雑な課題に産学で向き合う～

立命館大学デザイン科学研究所（以下、立命館）と株式会社アイシン（以下、アイシン）は、産学連携の共同研究を通じて開発した「性被害やっつけたるわファミかるた SNS 編」で、「2024 年度グッドデザイン賞」（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）を受賞しました。受賞カテゴリは、「研究・開発手法」です。

今回の取り組みは、産学連携 PBL（Project-Based Learning：課題解決型学習）を通じて、社会課題の解決を目指すと同時に、社会的インパクトの創出に挑むものです。「性被害やっつけたるわファミかるた SNS 編」は、次世代のモビリティ社会を志向するにあたり、これまで見過ごされてきた「子どもの性被害」のうち、「SNS に起因する子どもの性被害」という社会課題に着目しています。全体のプロジェクト設計では、企業（アイシン）と大学（立命館大学）に加え、地元警察、自動車販売店、地元小学校、Z 世代（学生）、他学術分野等を有機的に結合し、産学官地域が連携・協働して、困難な社会課題に向き合い共創できる関係性をコーディネートすることを意識しました。産学両方の立場を持つ山田貴子氏（大手メーカー勤続 25 年、立命館大学大学院 経営学研究科 徳田昭雄研究室 博士後期課程 D2）が全体のプロジェクト設計および指導を担い、子どもたちの感性に一番近い Z 世代（大学生：立命館大学経営学部 徳田昭雄ゼミ）がコンテンツ制作および製品デザインを行い、そのコンテンツを元に、アイシン社員が製品制作を担当し、「性被害やっつけたるわファミかるた（商標登録中）」が完成しました。

GOOD DESIGN AWARD
2024年度受賞

□製品名称：「性被害やっつけたるわファミかるた SNS 編」

□製品概要：見て見ぬふりや、やったつもりは、もうお終い。「子どもの性被害防止」というデリケートなテーマへのアプローチには、細心の注意を払い、具体的な行動に移しつつ、人口に膾炙するまでやり続ける覚悟と勇気が必要です。「子どもを守りたい」という一点に、産学の共感が凝縮され、熱量の逆りが、具体的なデザインを呼び起こし、「性被害やっつけたるわファミかるた（商標申請中）SNS 編」が誕生。

□受賞カテゴリ：「研究・開発手法」

□グッドデザイン賞審査委員による評価コメント：
「子どもの性被害」というセンシティブで複雑な課題に対し、子どもたちが能動的に参加し、理解しやすい形で伝える手段を設計した点を評価した。啓発ポスターや読み物では、これほど多くの性犯罪のリスクを伝えることは難しかったと思われるが、カルタであれば時間と場を共有しながら、しっかりと情報に向き合い、複数の情報を集中しながら把握できる形式であるため、そのメリットも大きい。実際に子どもたちがこのカルタで遊びながら性被害について理解を深めていくことが何よりも重要であり、共同研究で終えることなく今後も継続した活動となることを期待したい。

□ グッドデザイン賞ウェブサイトでの紹介ページ https://www.g-mark.org/gallery/winners/22399

□ アイシン×立命館大学デザイン科学研究所「社会課題「SNS に起因する子どもの性被害」に取り組むプロジェクト」紹介 WEB サイト https://www.aisin-ritsumei-sangakupj-famikaruta.com

【本件に関するお問い合わせ先】
立命館大学広報課　担当：名和　（TEL：075-813-8300）

別紙

□　立命館とアイシンの連携について

立命館とアイシンは、2023 年 5 月より「人とモビリティの未来を拓く」というテーマを掲げ、産学連携による社会課題の解決およびモビリティの新たな価値を創出する共同研究を開始しました。アイシンの技術と立命館大学のデザインサイエンスの知見をかけ合わせた共同研究の他，アイシン社員を対象とした連続講座「デザインサイエンスワークショップ」等を行っています。

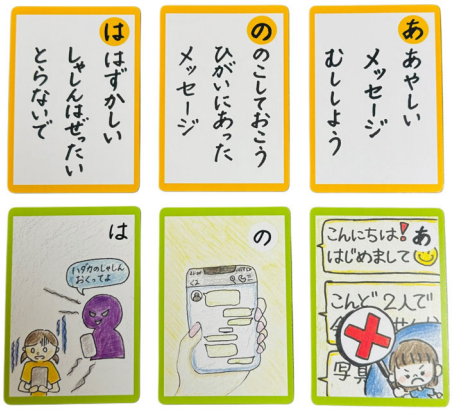
連携事業の背景は大学HP記事をご覧ください
https://www.ritsumei.ac.jp/news/detail/?id=3193

□　デザインのポイント

1) 見て見ぬふりをせず、真正面から向き合う。従来のように、社会課題「SNS に起因する子どもの性被害」から目を背けない。
2) やったふりをしている名ばかり産学連携からの脱却。産学官地域連携での有機的な結合と実践による社会実装。
3) 子どもを見守るだけでは解決しない。子どもと大人が一緒になり、自分事化し、不測の事態に自ら備える。

「グッドデザイン賞 2024」 二次審査展示の様子

＜読み札と絵札（表・裏）＞



シリアスな題材を、真剣だが深刻になりすぎることなく、できるだけ温かみを出すためにはどうすればいいかを Z 世代が議論し、オリジナルの読み句と絵を手書きで完成させました。

□　制作の背景

①課題の着眼点

　これまで日本では、子どもの性被害や対策は、扱いづらいセンシティブで複雑なものとされ、十分な関心が向けられていませんでした。そのような社会課題に対し、モビリティ社会での子どもの性被害への対策の視座の欠如に着目した上で、昨今、問題が深刻化している「SNS に起因する子どもの性被害」に焦点を絞りました。

②完成までの経緯と現在

　今回の取り組みは、産学連携 PBL（Project-Based Learning：課題解決型学習）を通じて、社会課題の解決を目指すと同時に、社会的インパクトの創出に挑むものです。産学連携 PBL（課題解決型学習）として、カルタのプロトタイプ制作から、地域イベントでの市場調査、分析、内容改善を経て、2023 年 12 月にアイシンへ提案し、制作が決定しました。2024 年 4 月に完成、その後、プレビューイベントとして、カルタ大会を 2 回実施し、大盛況のうちに終了しました（2024 年 5 月：立命館大学大阪いばらきキャンパスの大阪府茨木市と立命館大学の共催イベント「いばらき×立命館 DAY2024」、9 月：京都トヨタ自動車 GR ガレージ京都伏見の 6 周年イベント・秋祭り）。

イベントの様子

□　当かるたに関して

・アイシン×立命館大学デザイン科学研究所「社会課題「SNS に起因する子どもの性被害」に取り組むプロジェクト」紹介 WEB サイト→「お問い合わせ」より、相談ください。

https://www.aisin-ritsumei-sangakupj-famikaruta.com

・社会課題の解決に向けた産学の貢献として、”提供方法を含め検討”

【グッドデザイン賞とは】

1957 年創設のグッドデザイン商品選定制度を継承する、日本を代表するデザインの評価とプロモーションの活動です。国内外の多くの企業や団体が参加する世界的なデザイン賞として、暮らしの質の向上を図るとともに、社会の課題やテーマの解決にデザインを活かすことを目的に、毎年実施されています。受賞のシンボルである「G マーク」は優れたデザインの象徴として広く親しまれています。

GOOD
DESIGN